

劔岳登山

2014.10/1~3 3名で

私にとっては3回目の劔岳登山です。今回は北アルプス三大急登の一つである、「早月尾根コース」で往復しました。標高差は何と2249Mあります。

「北アルプス全一般登山道踏破」の一環として、日本百名山挑戦中のFさん、それに通？の登山に関心の強いOさんと3名での登山でした。

10/1 (水) 晴れ 4:30にJR信濃松川駅でFさんと合流し、6:00に糸魚川ICで新潟市のOさんと合流、滑川IC経由で7:30に登山口の馬場島着。

7:45~10:15 1400M~11:25 1800M (昼) 11:55~13:05 2000M

13:10~14:15 早月小屋 (泊)

10/2 (木) 晴れのち小雨 6:05~7:40 2400M 7:45~10:05 分岐~

10:16 劔岳 (2999M、日本百名山、昼食) 11:05~12:20 2800M~13:

35 2600M~15:35 早月小屋 (泊)

10/3 (金) 曇りのち雨 6:25~7:50 三角点~8:13 1800M~8:45

1600M~9:20 1400M~10:05 1200M~10:50 1000M~11:35 登山

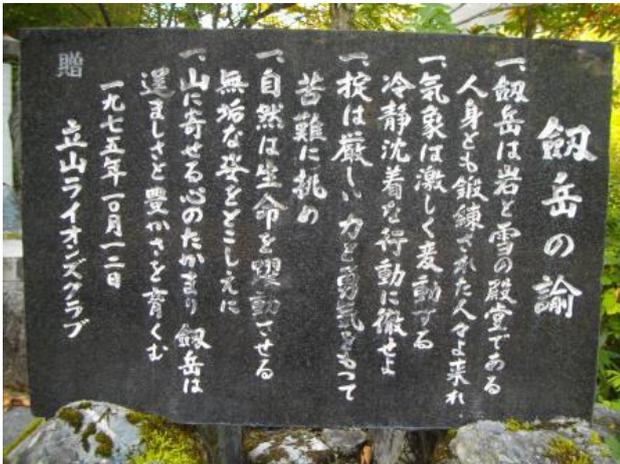
口 馬場島荘で入浴・昼食 13:35~15:00 糸魚川IC 15:10~16:45

帰宅 総走行距離 330KM.

初日は標高差1500Mの登りになるので早出にする。馬場島荘玄関前にある登山届ポストに登山届を投入して、「試練と憧れ」と書かれた合同慰霊碑のある

所からいきなりの階段状の急坂を登る。

登山口の諭



試練と憧れの碑



200M毎に設置されている



ダイヤモンドソウ



この登山道には標高 200M毎に「標高標」が設置されていて、目安としてとても便利である。立山杉の巨木も目につく。1600M位から紅葉が綺麗になる。急登は続くが紅葉と毛勝三山等の展望で癒される。計画より 2:30 以上早く早月小屋（別名、平蔵小屋）に到着する。小屋の周辺は紅葉の真っ最中で展望も素晴らしい。

小屋は3人で一部屋貸切（二日間共）、新設されたようで小奇麗だ。

急坂を登る同行者



紅葉の登山道



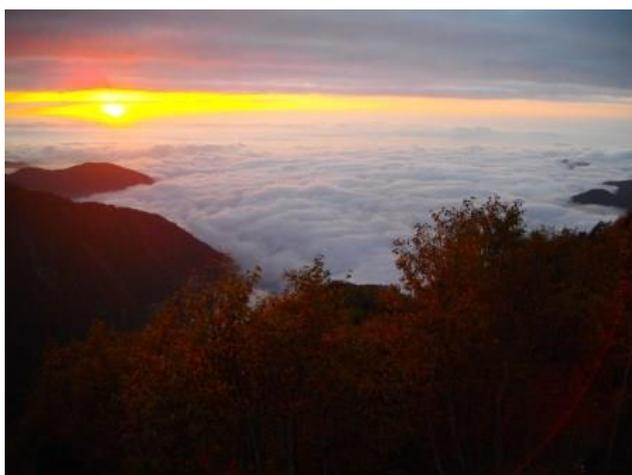
早月小屋



夕暮れの小屋前で毛勝三山



小屋前のサンセット



2日目は軽身で剣岳往復、通常は馬場島までその日に下るが。心配した天候も良く毛勝三山・僧ヶ岳・越中駒ヶ岳・赤谷山～赤ハゲ～池ノ平山を常に眺め

ながらの快適な登りが続く。右側は室堂・大日岳・薬師岳等を眺めながら。ナナカマドの紅葉が先日の乗鞍岳平湯道と同じで紅葉しないうちに落葉したり、いきなり茶色になった物がほとんどで「赤」色した物がほとんど見受けられない。今年の異常気象の影響と思うが。ダケカンバの黄色とナナカマドの赤色が紅葉の主役なので残念だ。それでも紅葉は最盛期で綺麗で時々立ち止まって眺めたり写真を撮ったりする。又今年は紅葉が1週間から10日も平年より早いと新聞にも書かれています。2600Mを過ぎると鎖・ハシゴが連続するが危険性は感じない。「カニのハサミ」と呼ばれる所があるようだが、気が付かなかった。剣岳の山頂からは360度の大展望が広がっていた。

剣岳山頂



山頂から立山方面



私の一番好きな山はこの剣岳です。「岩の殿堂」と言われる、堂々とした山容が魅力です。下山時にはガスが出てきたので、ラッキーだった。剣山荘方面から登って来た外国人がFさんに「おいくつですか?」と聞いて来た。Fさんはもうじき79歳なのだ。しかもガイドブックには「コースの途中に水場が無く、

一本調子の登りが山頂まで続き、他のコースと比べ物にならない体力が要求される。」と書かれている「早月尾根コース」で登ったのである。彼はカナダ人であったが、Fさんが山頂に居た事自体が驚きだったようだ。(彼は在日20年で、女性の年齢を聞くことが失礼だと自覚していて聞いて来たのだ) 私もう剣の山頂からの展望は最後になると思い、シッカリ脳裏に焼き付けて下山した。

剣岳を振り返る



小屋が近づきました



そうは言ってもFさんも昨日からの標高差のある登りで疲れもあり、登りより20分余計にかかったの(コースタイムは2:30だが4:30かかりました。でも足元が悪い箇所も多く、安全を期してのユックリ歩行でした)下山になりました。小屋が近づき小雨が降ってきましたが、雨具を着る事無く小屋に着きました。

3日目は台風の影響もあり途中から雨降りになりました。下山だけなので気にしないで歩きました。登って来る登山者が4パーティーいました。短時間で登

れる「前劔コース」でなくこのハードなコースをわざわざ選んで登る人達の心境はいかに？一人一人に問いたい気がしました。ソオ言う私自身静かな山登りが楽しめ、毛勝三山～小窓尾根を終始展望しながらの紅葉の登山道は感激物でしたが。馬場島荘で入浴・食事、温泉でもないのに、500円で入浴できて、登山者には有難い施設である。上市町町営で綺麗な施設で宿泊もできます。

馬場島荘



風呂場



韓国人のパーティーが大きなザックを背負ってタクシーから降りてきた。登山届を記入していたので、覗き見したら「劔岳～笠ヶ岳」と記入されていた。ザックを持ってみたが、私の力では全く持ち上がらないかなりの重量だった。ニンニク臭がきつかったので、ニンニクパワーの威力か？

帰路に



Fさんは又1座難関を突破しました。(このコースを選んだのは、カニのタテ・ヨコバイを敬遠したためです) 終始Fさんを気使ってサポートして下さったOさんに感謝します。

深田久弥氏の「日本百名山」には次のように記されています。(抜粋です)

北アルプスの南の重鎮を穂高とすれば、北の俊英は剣岳であろう。層層たる岩に鎧われて、その豪岩、峻烈、高邁の風格は、この両巨峰に相通じるものがある。まことに剣岳は、そんな昔から、それを仰ぐ人々の心を高揚する山である。何よりその風采の豪毅にして颯々たる点である。日本アルプスの高峰にはそれぞれの風格があるけれど、一つの尖端を頂点として胸の透くようなスッキリした金字塔を作っているのは、この剣岳と甲斐駒ヶ岳ぐらいであろう。全く剣岳は太刀の鋭さと靱さとを持っている。その鋼鉄のような岩ぶすまは、激しい、険しいせり上がりをもって、雪をよせつけない。四方の山山が白く装われても、剣だけは黒々した骨稜を現している。その鉄の砦と急峻な雪谷に守られて、永らく登頂不可能の峰とされていた。どこから見ても断崖と岩壁に鎧われていて、どこから登り得るか見当のつけようさえなかった。雄々しい岩峰と、その間隙に光る純白の雪。これほどアルプス的な力強い構図は他に類がない。

赤沼健治